

平成 31 年 3 月 28 日
独立行政法人国立科学博物館

報道関係各位

国立民族学博物館・国立科学博物館共同企画展
「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」
開催ならびにプレス内覧会実施のお知らせ

国立科学博物館（館長：林良博）では、2019（平成 31）年 4 月 9 日（火）から、国立民族学博物館・国立科学博物館共同企画展「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」を開催いたします。

本企画展のオープンに先立ち、4 月 8 日（月）に、別添のとおりプレス内覧会を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。

本企画展は、現生人類が作り出した人類最古の装飾品である「ビーズ」をテーマに、国立民族学博物館と国立科学博物館が初めて共同で開催する、「文化系」と「理科系」を“つなぐ”文理融合型の展覧会です。

ビーズは、人やものを飾るだけでなく、さまざまな目的のために作られてきました。その素材は、動物、植物、鉱物、金属、ガラスなど多岐にわたり、それらが持つ性質は、ビーズの役割に大きな影響を与えています。私たちはおよそ 10 万年もの間、どのような素材や技術を用いて、何のためにビーズを作ってきたのでしょうか。

国立民族学博物館と国立科学博物館。それぞれの専門分野である民族学、自然科学の視点からビーズを眺め、双方の知見を合わせることで、ビーズと人類とのかかわり方を紹介します。

本企画展の開幕に先立ち、4 月 8 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分の間、プレス内覧会を実施します。取材・記事の掲載など本企画展の広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

【会 場】国立科学博物館日本館 1 階企画展示室（東京都台東区上野公園 7-20）

【開催期間】2019（平成 31）年 4 月 9 日（火）～6 月 16 日（日）

【開館時間】午前 9 時～午後 5 時（金・土曜日、4 月 28 日（日）～5 月 5 日（日）は午後 8 時まで、5 月 6 日（月・休）は午後 6 時まで）

【入 館 料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：620 円 高校生以下および 65 歳以上無料）

【休 館 日】毎週月曜日および 5 月 7 日（火）

（ただし、4 月 29 日（月・祝）、5 月 6 日（月・休）、6 月 10 日（月）は開館）

【主 催】国立民族学博物館、国立科学博物館

【展示概要】別添の本展チラシ参照

【問合せ先】国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：松澤 裕子

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9883、FAX：03-5814-9898、E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

国立民族学博物館・国立科学博物館共同企画展
「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」
プレス内覧会のお知らせ
2019（平成 31）年 4 月 8 日（月）15 時 00 分～／国立科学博物館

国立科学博物館では、国立民族学博物館・国立科学博物館共同企画展「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」の開幕に先立ち、下記のとおりプレス内覧会を実施いたします。

当日は、当館担当研究者等による展示解説を行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

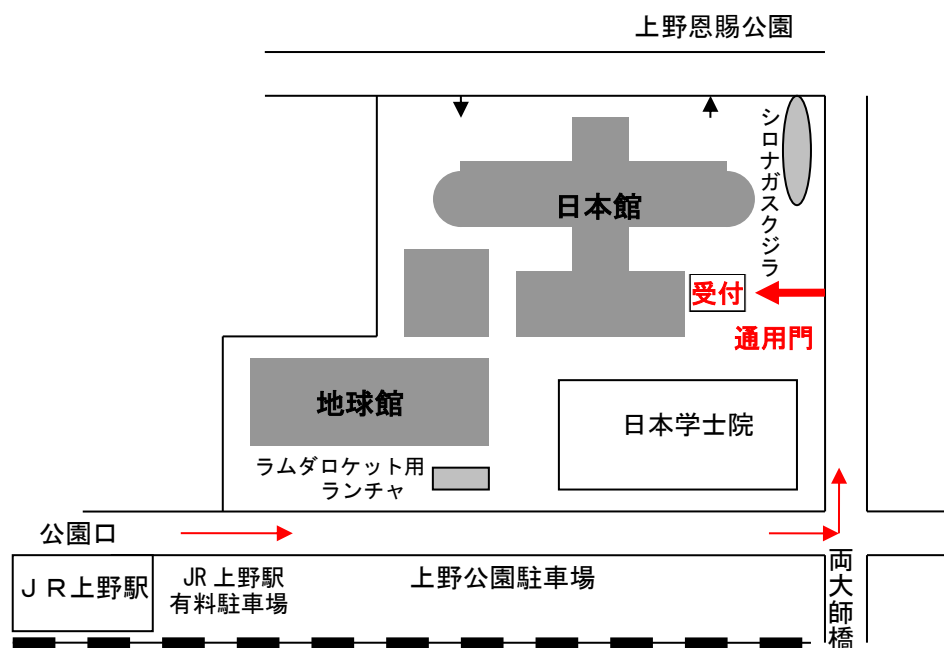
記

【日 時】 2019（平成 31）年 4 月 8 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分

（受付開始 14 時 30 分～）

【会 場】 国立科学博物館 （東京都台東区上野公園 7-20）

【受 付 場 所】 国立科学博物館 事務棟入口 ※通用門からお入りください。
〈交通のご案内〉 JR 上野駅公園口から徒歩 5 分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅から徒歩 10 分
京成電鉄上野駅から徒歩 10 分
※駐車場の用意はございません。



当日のスケジュール

14 時 30 分～

受付開始（受付場所：事務棟入口 ※通用門からお入りください）

15 時 00 分～16 時 00 分 展覧会内覧（会場：日本館 1 階企画展示室）

- ・ 当館担当研究者等による展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします。

【主な解説者】

国立民族学博物館人類文明誌研究部 教授

池谷和信

国立科学博物館副館長（兼）人類研究部長

篠田謙一

- ・ 展示室内の撮影が可能です。

展示監修者のプロフィール



国立民族学博物館 人類文明誌研究部 教授

池谷 和信（いけや かずのぶ）

専門は環境人類学、人文地理学、アフリカ研究、地球学。アフリカのカラハリ砂漠に暮らすサン人やカラハリ人の暮らしをとおし、自然と人とのかかわり方に関心を持ってきました。研究のフィールドは、熱帯アジア、日本、ベーリング海峡、アマゾンにも広がっています。将来的には、地球環境史を構築、現代文明の行く末について見通しを提示することが研究のねらいです。ビーズ細工および「親指ピアノ」に関する物質文化についても研究しています。



国立民族学博物館 学術資源研究開発センター 教授

野林 厚志（のばやし あつし）

専門は、人類学、民族考古学、台湾研究。動植物資源の多面的価値について、人類学的なフィールドワークを通じて探究しています。また、台湾のオーストロネシア系先住諸民族（「原住民族」）のエスニシティが生成される過程を人類学的に探究し、「民族」生成の動態を、実体と概念とのレベルでモデル化することを目指しています。



国立科学博物館 副館長（兼）人類研究部長

篠田 謙一（しのだ けんいち）

専門は分子人類学で、日本や中国、台湾、ベトナム、ロシアなどアジア各地の古人骨の DNA 解析から日本人の起源を追っています。また、南米アンデス先住民の DNA 解析から、その系統と社会構造について研究を進めています。



国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ

研究主幹 川田 伸一郎（かわだ しんいちろう）

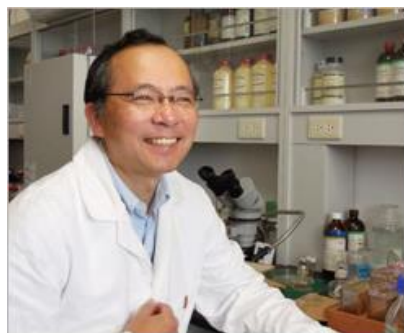
専門は哺乳類学。哺乳類の分類と種分化に関して、特にモグラ類の形態学的分析と核型分析を中心とした研究、また哺乳類の歯式進化に関する研究を行っています。明治から昭和初期にかけての日本の動物学史についても文献・資料の調査を行っています。



国立科学博物館 動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ

研究主幹 長谷川 和範（はぜがわ かずのり）

専門は動物系統分類学。軟体動物腹足類（巻貝の仲間）について分類学的研究を行っています。特に、日本とその周辺の海域に生息する、成長しても数ミリメートル未満にしかならない、いわゆる微小貝について詳しく調べています。また、最近では深海性の種類の研究にも力を入れています。



国立科学博物館 動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ

研究主幹 齋藤 寛（さいとう ひろし）

専門は軟体動物分類学。特に日本を含むインド-西太平洋域に分布する種を中心にヒザラガイ類の分類、研究を行っています。また、昭和天皇コレクションの相模湾産カセミズ類と、東北沖で採集されたサンゴノフトヒモについても研究しています。



国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ

研究主幹 堤 千絵（つつみ ちえ）

専門は植物進化学で、着生植物の進化に関する研究や、シダ植物ゼンマイやラン科クモキリソウ属などの分類、系統、進化について研究をしています。筑波実験植物園の研究員を兼任し、植物園における教育普及活動の活性化にも取り組んでいます。



国立科学博物館 地学研究部 鉱物科学研究グループ

研究主幹 門馬 綱一（もんま こういち）

専門は鉱物学、結晶学。新種の鉱物を探しにフィールド調査に出かけたり、鉱物の結晶構造を解析しています。また、解析用ソフトウェアの開発もしています。



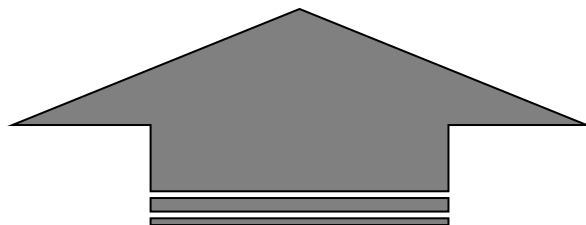
国立科学博物館 人類研究部 人類史研究グループ
研究主幹 藤田 祐樹（ふじた まさき）

専門は形態人類学で、沖縄を中心に旧石器時代の人類史や動物資源利用について研究しています。2012年に沖縄島南部のサキタリ洞遺跡で約2万年前の貝製ビーズを発見してしまったことから、先史時代のビーズや貝製品の研究も始めました。人生、出たモノ勝負です。



国立科学博物館 理工学研究部 科学技術史グループ
研究主幹 沓名 貴彦（くつな たかひこ）

専門は材料工学、保存科学。金や銀といった非鉄金属の生産に使用したとみられる遺物に、科学的な手法を活用して使用目的やその技術を調べることで、日本における非鉄金属生産技術の発展過程を研究しています。また、人間が生み出した様々なモノを未来に伝えるための研究もしています。



【 返 信 用 紙 】

F A X 番 号

< 0 3 - 5 8 1 4 - 9 8 9 8 >

国立民族学博物館・国立科学博物館共同企画展

「ビーズ ―自然をつなぐ、世界をつなぐ―」

プレス内覧会 参加票

(平成31年4月8日(月) 15:00～ ※受付:14:30～)

参加をご希望される方は、下記項目にご記入の上、4月5日(金)までに

F A Xにてご返信いただければ幸いです。

お手数をおかけいたしますがよろしくお願い申し上げます。

□ご出席

貴社名 _____

貴メディア・所属部署名 _____

ご芳名 _____

連絡先

住所: 〒 _____

TEL: _____ FAX: _____

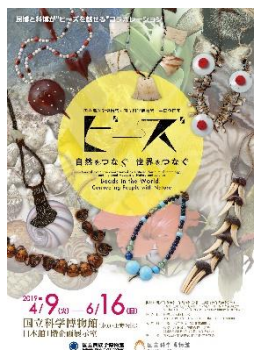
メールアドレス: _____

備考 _____

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの各種手続き・報道関係資料→写真・施設の貸出からお申し込みできます。
(<http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



1. 企画展「ビーズ」
チラシ表面



2. 祭儀供物用仮面
所蔵: 国立民族学博物館



3. オウム貝の貝殻の首飾り
所蔵: 国立民族学博物館



4. ヒトの歯の首飾り
所蔵: 国立民族学博物館



5. 人像(ビーズ製)
所蔵: 国立民族学博物館



6. イス(神像付き)
所蔵: 国立民族学博物館



7. キビタイボウシンコ
所蔵: 国立科学博物館



8. ハナビラダカラ
所蔵: 国立科学博物館



9. ジュズダマの生態
画像提供: 国立科学博物館

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈問合せ先〉 国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 企画展担当
電話 03-5814-9883 FAX 03-5814-9898
E-mail ; kikakuten@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

民博と科博が“ビーズを魅せる”コラボレーション

国立民族学博物館・国立科学博物館 共同企画展



自然をつなぐ 世界をつなぐ

Special Exhibition co-organized by National Museum of Ethnology,
and National Museum of Nature and Science

Beads in the World:
Connecting People with Nature

2019年
4/9 (火) — **6/16** (日)

国立科学博物館 (東京・上野公園)
日本館1階企画展示室

開館時間／午前9時～午後5時(金曜・土曜日は午後8時まで)
※金曜・土曜日及び4月28日(日)～5月5日(日・祝)は午後8時まで
※5月6日(月・休)は午後6時まで ※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日／月曜日、5月7日(火)
(ただし4月29日(月・祝)、5月6日(月・休)、6月10日(月)は開館)

入館料／一般・大学生620円(団体500円)
高校生以下および65歳以上無料
(常設展示入館料のみをご覧ください。)

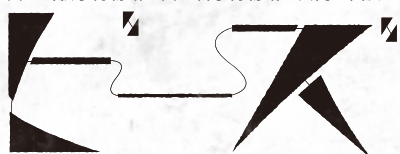
主催／国立民族学博物館、国立科学博物館



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science



自然をつなぐ 世界をつなぐ

Special Exhibition co-organized by National Museum of Ethnology,
and National Museum of Nature and Science

Beads in the World:
Connecting People with Nature

人やものを飾るだけではなく、さまざまな目的のために、多様な素材を使って作られてきたビーズ (Beads)。私たちは、およそ10万年もの間、何のために、どのような素材や技術を用いてビーズを作ってきたのでしょうか。

民博と科博。それぞれの専門分野である民族学、自然科学の視点からビーズを眺め、双方の知見を合わせることで、ビーズと人類とのかかわり方を紹介します。

1 ビーズとは

ビーズ (Beads) は、さまざまな部材をつなげたものと定義します。ビーズに用いられる素材はさまざまで、それらが持つ性質はビーズの役割に大きな影響を与えています。ビーズの持つ性質を考えると、素材について考えることが重要です。

2

植物のビーズ

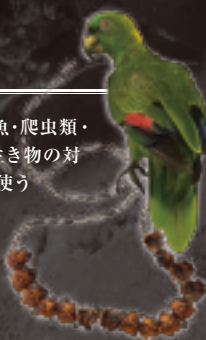
植物のビーズには、草や木の実、種子、花、葉などさまざまな部位が使われてきました。植物では、部位をそのまま使うことができる点、すでに穴があいているものもある点、匂いを持つ点など、他の素材とは異なる特徴があります。私たち人類は、色や形、加工しやすさなどを考慮して、植物の部位をビーズに利用してきました。



3

動物のビーズ

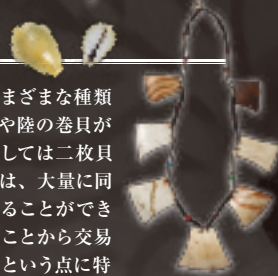
動物を材料としたビーズでは、虫・鳥・魚・爬虫類・ヒトを含む哺乳類など、素材となる生き物の対象が多様である点、部位をそのまま使う場合と加工する場合がある点などの特徴があります。私たち人類は、入手の困難さ、穴をあけるための労力などを考慮して、動物の部位をビーズに利用してきました。



4

貝のビーズ

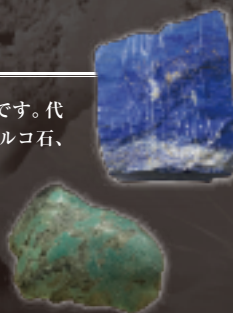
貝製のビーズの作製には、さまざまな種類の貝が使われてきました。海や陸の巻貝が中心ですが、ビーズの部材としては二枚貝も使われました。貝の場合には、大量に同じ大きさや形のものをそろえることができる点、持ち運びに便利であることから交易を通して遠方に運ばれてきたという点に特徴があります。



5

石のビーズ

石のビーズに用いられる素材もさまざまです。代表的な素材としては、ヒスイ、メノウ、トルコ石、ラピスラズリなどが挙げられます。石の場合には、素材の産地が偏在している点や、素材の獲得や穴をあけるために特別な技術が必要であるという点に特徴があります。



7

ガラスのビーズ

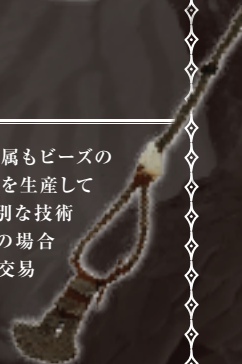
さまざまな色のガラスが、単色の玉やトンボ玉など多様なガラスビーズに利用されました。ガラスビーズの交易品としての価値は大きく、17世紀以降、世界の諸地域をつなぎました。日本列島でも紀元前に海外からもたらされ、その後国内で作られるようになり、その価値は大きいものでした。
(ガラス勾玉：春日市奴国の丘歴史資料館蔵)



6

金属のビーズ

金、銀、銅、鉄など、さまざまな種類の金属もビーズの素材として使われてきました。鉱石から金属を生産してビーズへ加工するためには、いくつもの特別な技術が必要となります。このため、鉄製ビーズの場合などでは、製作する職人と利用者との間の交易が発達してきました。



8

21世紀のビーズ

21世紀に入り、紙やコットンパールといった新たな素材や、ワイヤーアートやビーズ織りといった技法を用いたビーズが生まれています。10万年の間、自然と人をつないできたビーズは、今後ますます多様化していくでしょう。そのとき私たちとビーズのかかわりはどのように変化していくのでしょうか。

講演会 【会場】日本館2階講堂 【時間】14:00~16:00

4月27日(土)

〔事前申込制〕

企画展『ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー』
民博 vs. 科博講演会

※講演会、ギャラリートークの詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.kahaku.go.jp/>

交通ガイド

- JR
「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ 銀座線・日比谷線
「上野駅」から徒歩10分
- 京成電鉄
「京成上野駅」から徒歩10分

※当館には駐車場および駐輪場はありません。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL. ハローダイヤル: 03-5777-8600
FAX: 03-5814-9898
<http://www.kahaku.go.jp/>